

防災連絡会議だより

12号（令和3年3月22日）

発行 北斗市防災連絡会議

五稜郭公園 桜の開花は4月22日？ 松前は4月21日？

東京では3月15日に気象庁の職員が靖国神社を訪れ、ソメイヨシノの標本木を見て開花を宣言。全国的に平年より5日程度早い開花となっているようです。寒い冬にもかかわらず、なぜ桜の開花が早くなったのか疑問を持たれる方もおられると思います。実は桜の開花には2つの条件が関係しています。それは休眠期間と休眠後の暖かさです。冬が暖かいと木は眠れないのです。寒いからこそ十分休眠ができ、その後の開花は気温の上昇次第というようになります。

沖縄の桜はカンヒザクラという種類で、桜の開花は1月の中旬ごろから。不思議なことに、沖縄では2つの開花条件により、桜は南部からでなく少し寒く十分に休眠をとった北部の桜から咲き始めるそうです。

北斗市の桜回廊は4月28日から始まり、法亀寺、松前藩戸切地陣屋跡、大野川沿いではライトアップも行われます。今年も咲き誇る見事な桜を見たいものです。



靖国神社境内の桜の標本木

東日本大震災から10年 今、改めて『防災』を考え

高橋 悦郎(代表)

東日本大震災は2011年（平成23年）3月11日14時46分頃に発生。三陸沖の宮城県牡鹿半島の東南東130km付近で、深さ約24kmを震源とする地震でした。マグニチュード（M）は、1952年のカムチャッカ地震と同じ9.0。これは、日本国内観測史上最大規模の地震でした。

あの日から暫くの間、幾度となくテレビの画像に映し出された大津波がやってくる様子、船ばかりでなく車や家屋までが流されていく様子、自然災害の恐ろしさを目の当たりにして、想像を絶する大きな被害に衝撃を受けた人も多いと思います。北斗市も1993年（平成5年）の北海道南西沖地震や2018年（平成30年）の北海道胆振東部地震に伴う大規模停電（ブラックアウト）など幾度となく被害を受けております。

北斗市では、避難に手助けが必要な高齢者や障害者など”誰が支援””避難ルート”を具体的にきめる『個別支援計画』を作成し、「避難行動要支援者」として約2,000名が登録されています。しかし、この計画を立ち上げてから数年経ちましたが、一度も改訂されていません。高齢者の中には、”既に亡くなった人””新たに支援が必要になった人”など毎年見

直しが必要なのですが。

ひまわり町会(345世帯)には現在、70歳以上の高齢者が210名居住しております。また「避難行動要支援者」として市に登録されている人や町会独自で「支援が必要」と確認した人が50名ほど在住しております。

先日3月11日、NHKのニュース全道版の中でひまわり町会が取材を受けました。



はじめに90歳の高齢女性へのインタビューのあと、高規格道路(のちの函館江差自動車道)ののり面に整備された「津波一時避難

場所」「ひまわり町会防災備品保管庫」など2時間以上にわたっての取材でした。

今、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ほとんど全ての行事、活動が中止になっていますが、自然災害はいつやってくるかわかりません。『備えあれば憂いなし』で、常に万が一に備えての心構えが必要だと思います。

.....★★★

雑 感

田原 勝昭(運営委員)

令和3年(2021年)3月11日、東日本大震災が発生してから10年の節目を迎えた。異口同音に、もう10年、未だ10年という声が聞こえる。戦後最大の自然災害に記録された。死者行方不明者などを含め実に22000人を超えている。

今年2月には福島県沖を震源とする震度「6強」が東北地方を中心に襲った。政府の地震調査会は、東日本大震災から10年になることにふれ、震源区域周辺では今後も長期間にわたって規模の大きな地震が発生し、強い揺れや高い津波に見舞われる可能性があるとの見解を示した。さらに、南海トラフで起こる巨大地震への備えが広く社会的な課題となり、最大級であれば被害は東日本大震災を上回る「超広域複合大震災」が発生すると警告しており、とにかく「自力で生き延びる必要がある」と説く。

北斗市はご承知のとおり東日本大震災の2年後、平成25年(2013年)6月「災害対策基本法」の一部改正を受けて、翌平成26年(2014年)9月避難行動要支援者対策を打ち出し、関係機関、とり分け地元町内会、自治会に自主防災組織の立ち上げを進めると共に、避難支援者名簿登録を呼びかけた。その結果、自主防災組織を有する町内会などに名簿を提供し現在に至っている。しかし、「自力で生き延びることができない」いわゆる要支援者の住民の避難誘導に当たる自主防災会としては極めてその対応が難しく、特に年々人口減少や高齢化を目のあたりにして困難な状態が常態化しつつある。この難しさに、今年は更に重くのしかかる。今年3月、災害時市区町村が発令する「避難勧告」を廃止し、「避難指示」に一

本化する「災害対策基本法」の一部改正が政府の閣議で決定したが、同時に各自治体に避難要支援者個々の「個別計画」作成を各自治体に義務付ける案が現在浮上している。今まで国は要支援者の登録作業を義務付けしていたが、さらに一步踏み出す改正案である。これを受けた自治体はどのような形で推進するのか当方は注目している。自力避難できない地域住民の対応はどうあるべきか悩みの種がまた増える。

一方、国土交通省は、被災前からまちづくりの手順や構想を事前に定めておく、いわゆる「事前復興」のとりくみが必要として、ガイドラインを各自治体に策定を勧めている。北斗市は「事前復興」の目玉として思い切った都市計画の見直しを進めて欲しい。

小生は、この機会にふと考えたことを提案したい。北海道新幹線函館・北斗駅周辺に北海道南西部一円をエリアとした「災害対応防災拠点基地」を作ってはいかがでしょうか。

これからの災害は先に述べましたが、「超広域複合災害」が想定されています。したがってこれらに対応するため、防災ヘリや防災関係機関が一同に集まれる基地が必要で、幸い駅の近くに食料を確保できる七飯町の「道の駅」があり、近くに大動脈の国道があり、新幹線駅があります。函館市や周辺自治体を巻き込んで「防災に熱心に取り組む北斗市」を印象付けたい。ぜひ一考を。

自然災害を風化させるな

虻川勝男（運営委員）

巨大災害の東日本大震災から 10 年が経過しましたが、記憶が風化する中で、近年日本列島は想定外の自然災害が数多く発生し、多数の被害また犠牲者が出ています。「災害は忘れたころにやってくる」との言葉がありますが、日本人全員が災害を未然に防ぐにはと、防災対策や防災意識への関心度は高揚していると思いますが、あの巨大災害を絶対に風化させてはならないと思います。

現在は、コロナ感染などの関係で、各種の避難訓練や地域活動などにも、大きな影響が出ています。特に地域活動の計画が縮小され、また過去に発生した自然災害の教訓や地域の防災意識に支障が出ていると思います。阪神淡路大震災、東日本大震災、北海道では南西沖、胆振東部地震、また台風や豪雨など数多く発生しています。

私は小学校の時、猛烈な台風により、北斗市七重浜沖で青函連絡船「洞爺丸」の転覆事故をこの目で確認しました。日本海難史上最大の犠牲者が約 1 4 0 0 名、子どもとして恐怖を感じました。この災害も風化させず次世代へ伝えることが必要と思っています。北斗市七重浜 7 丁目の砂浜に「海難慰霊碑」の建立のことを後の世代にも、伝えていきたいと思っています。どの災害にも、数多くの被害者がいて「人生や夢や希望が」また、大切な家族や友達がいることを忘れてはならないと思います。

七重浜 4 丁目町会では、昨年コロナ感染の関係で中止した「津波避難訓練」ですが、今年は、是非実施したいと思っています。北斗市及び防災連絡会議の皆様方のご指導をよろしくお願いいたします。

町内会が連携し、広げよう、繋げよう防災活動の輪を

国土地理院地図を防災に活用しよう！

津波ハザードマップには避難場所、避難経路、避難方向、浸水深、標高（海拔）などが記載されています。北斗市の場合は鳥瞰図で全体的に見やすく表現されているのが特色です。

ハザードマップは全体を見ることに適していますが、個々の地域を見るには適しません。また、こうした地図を読むことは難しいことですので、各町内会において会報や防災訓練（避難訓練、研修会）を通じて、住民に丁寧に説明し理解していただくことが必要です。

市のハザードマップ、七重浜の一部で 5m の等高線に誤りがあることに気が付き、各自自治体のハザードマップは国土地理院のデータから作成されていることから、国土交通省国土地理院の担当者へメールで問い合わせを行った所、地図の等高線に誤りがあることが判明しました。また、函館市の等高線にも誤りがあり、担当者から等高線を修正するとの回答をいただきました。地理院地図には様々な情報や地図がありますので、是非ご活用ください。

避難のカスケード（cascade） “声をかけ合って”

「教育新聞」の中に「大川小学校もそうですが、犠牲が出たのは津波が襲ったからではない。逃げなかったからなんです。意思決定と行動が命を救う。正しく避難ができれば被害者はほぼ出ない」とありました。また、片田敏孝氏（大学教授）はある講演会で、防災教育について、災害で子どもが避難せずに被災した場合の大人や地域の責任について問題提起し、「きちんと逃げる姿勢を子どもに見せる。自分の命を守ることは大切な人の命を守ること。防災は人との関わりの中で考える命の教育」と語っています。課題は「避難」にあり、率先して避難する、さらに声をかけ合う、避難のカスケード（連鎖）が必要です。防災連絡会議でも運営委員の方々から出された課題も含めて検討していきたいと思えます。

上野廣幸（代表）

気象庁の防災情報



津波フラッグとは？ キキクルとは？

- ★津波警報等を知らせるために、「赤と白の格子模様の旗」の「津波フラッグ」が登場。海岸で見た際は直ちに避難してください。※令和2年の夏から登場
また、昨年の9月、函館水産高校の生徒たちによる「津波フラッグ」の周知を図るパネル展が七重浜住民センターで開催されています。
- ★気象庁は土砂災害や洪水など大雨による身の回りの危険が一目でわかる「危険度分布」を提供していますが、この愛称が「キキクル」に決定しました！

事務局 北斗市総務部総務課交通防災係

電話 73-3111（内線 212） Fax 73-6970 メール bosai@city.hokuto.hokkaido.jp